

# 平戸キリストン紀行

~平戸への旅~



平戸教会マップコード 000 000 000 000 000 000

カーナビのマップコードに入力してください。  
若干のズレがある場合もあります。

## 交通アクセス

■車ご利用 福岡(西九州自動車道経由) — 南波多谷口IC — 山代久原IC — 今福IC (60分)  
各地(高速道経由) — 武雄北方IC (49分) — 伊万里 (20分) (60分) — 平戸  
佐々IC (20分) (40分)

■JR・MRご利用 博多 (JR・80分) — 佐世保 (JR・110分) — MRたびら平戸口駅 (特急バス・70分) — 平戸  
有田 (JR・85分) (MR・100分) — MRたびら平戸口駅

■バスご利用 福岡 (高速バス・120分) — 佐世保 (半急バス・90分) — 平戸

(一社)平戸観光協会

TEL 0950(23)8600 FAX 0950(23)8601  
<http://www.hirado-net.com/>



長崎県 平戸市

平戸にキリスト教が伝来したのは1550年。  
1873年(明治6年)に禁教が解け、信教の自由を勝ち取るまでは弾圧と潜伏の歴史がありました。そういった歴史と風景に息づいたそれぞれの教会は建築物としても魅力あふれるすばらしいものです。さまざまな視点から教会めぐりをお楽しみいただければ新たな発見の旅となることでしょう。

## キリストian年表

天文18年(1549)	フランシスコ・ザビエル率いる初の宣教師一行、鹿児島に上陸。
天文19年(1550)	ポルトガル船、平戸に初めて来航。 フランシスコ・ザビエル、平戸に立ち寄り布教。
天文22年(1555)	宣教師平戸布教、平戸に十字架立つ。この頃信者500名。
永禄元年(1558)	イエズス会士、平戸より追放されるが、マカオからの商人は平戸入港を継続。
永禄4年(1561)	宮の前事件(ポルトガル人と平戸町人の間の争い)発生。
永禄7年(1564)	ルイス・フロイス、平戸に御宿りのサンタ・マリア教会(天門寺)を建立。
天正8年(1580)	大村純忠、長崎をイエズス会に寄進。
天正15年(1587)	豊臣秀吉、伴天連追放令を発布。宣教師、度島に集結し、善後策を協議。
慶長4年(1599)	籠手田氏・一部氏と信徒多数、長崎に退去。
慶長14年(1609)	オランダ、平戸に商館を設置。ガスパール西玄可等殉教。
慶長18年(1613)	イギリス、平戸に商館を設置。幕府キリストian禁教令を発布。
元和元年~9年(1615~1623)	この頃、多数の宣教師が日本へ密入国。
元和2年(1616)	中国以外の外国船の寄港地を平戸と長崎のみに限定。
元和8年(1622)	カミロ・コスタンツオ神父、田平の焼罪で殉教。中江ノ島でも信徒が殉教。
元和9年(1623)	平戸のイギリス商館、閉鎖。
寛永1年(1624)	日本とイスパニアの国交断絶。
寛永16年(1639)	幕府ポルトガル人の入国を禁止。 平戸キリストian嫌疑事件(浮橋主水事件)発生。
寛永18年(1641)	オランダ商館、平戸から長崎出島に移転。
寛政12年(1800)	この頃、上五島等の潜伏キリストian、平戸へ移住。
明治6年(1873)	明治政府、キリストian禁教を解除。カトリック・かくれキリストianとに別れる。
明治18年(1885)	この頃、カトリック紐差教会建立。(現教会は1929年建立)
明治31年(1898)	カトリック宝亀教会建立。
大正7年(1918)	田平天主堂建立。
昭和6年(1931)	平戸ザビエル記念教会建立。

## 教会見学時のマナー

- 堂内では帽子を脱いでください。
  - トイレは、事前にもよりの公衆トイレや「道の駅」等でお済ませください。  
(緊急の場合は、信徒用のトイレをご利用いただくことも可能)
  - 堂内での写真撮影は、原則禁止です。
  - 棚内や内陣(祭壇域)及び2階の楽廊には入らないでください。
  - 堂内での飲食、飲酒、喫煙はご遠慮ください。
  - 酒気を帯びての入堂はご遠慮ください。
  - 退出時には、出入口のドアを必ずお閉めください。
  - 堂内にある物(聖書などの私物)には手を触れないでください。
- \*なお、ミサや冠婚葬祭等、教会行事が行われている時は、入堂をご遠慮いただくことがありますのでご了承ください。



# ステンドグラスが歴史を映す、平戸。

1550年イエズス会の宣教師ザビエルが平戸を訪れ布教を始めます。平戸藩主松浦隆信は、ポルトガル貿易に対する期待もあり、布教に協力的でした。多くの教会が建ち、ラテン語の聖歌が唄われ、西洋式医術が施されました。しかし、時代は禁教へと移り、松浦氏も禁教政策を強め、多くの殉教者を出すことになります。時代に翻弄され、それでもなお継承され続けたキリスト教の歴史があります。

## ザビエル記念碑



天文19(1550年)平戸にポルトガル船が入港したことを知り、鹿児島から平戸に訪れたザビエルは、この時多くの信者を得たことで、日本布教の可能性を強く信じたことでしょう。



## 平戸オランダ商館



江戸時代初期、平戸には日本初のオランダ商館が開設され、鎖国政策により出島に移るまでの33年間、日本の対外貿易の拠点となっていました。2011年オランダ商館倉庫が復元され、当時の貿易品の数々や平戸藩との関わりを紹介する資料館となっています。

住 平戸市大久保町2477 0950-26-0636 交 西肥バス平戸桟橋バス停から徒歩5分 料 大人300円小中高200円 時 8時30分~17時30分 休 6月第3火曜日、水曜日、木曜日 P なし(平戸港交流広場駐車場利用)



## 平戸ザビエル記念教会

この教会は、昭和6年(1931)に建設され、聖堂が寺院に囲まれ、東洋と西洋文化が混在して調和する、平戸の象徴的な景観を見せていました。エキゾチックな彫刻やステンドグラスなどに芸術的な感性も満たされる聖堂です。

住 平戸市鏡川町269 交 西肥バス平戸市役所前バス停から徒歩10分 料 拝観無料 時 8時~16時(ミサ・催事等の時は見学不可) 休 無休 P 普通車50台 大型なし

## 聖ペトロ・バプチスタ神父上陸記念碑

場所:未来創造館駐車場前

1544年スペインのアビラ県サン・エステバン・デル・バリエ村に生まれ、フィリピン総監督特使として平戸に上陸、肥前名護屋城で太閤秀吉と会見します。京都在住の許可と土地の寄進を受け修道院と聖堂及び病院を開設し、無所有の清貧生活でキリスト教の精神文明をわが国に導入し社会福祉に献身しました。1597年2月、二十六聖殉教者のリーダーとして長崎で殉教しました。



## カトリック上神崎教会

1865年3月17日の、いわゆる「信徒発見」という歴史的事件によって、日本のキリスト教は250年近い潜伏の時を抜け出し、これを機に長崎のあちこちで信徒たちが社会の表に現れ出ることになります。1880年頃から主に黒島と五島から、生活の場を求めて、信徒たちが上神崎の地に移住してきました。

住 平戸市大久保町220 交 西肥バス光の園保育園前バス停から徒歩すぐ 料 拝観無料 時 9時~17時(ミサ・催事等の時は見学不可) 休 無休 P 普通車40台 大型1台

第4日曜日は、  
まりあキッチンへ。

上神崎教会 第4日曜日 9:30~11:00

数年前に教会の有志ではじめたおもてなし。供される3種類ほどのスイーツは全て手作りです。信仰を問わず、地元の方、観光客の方も受け入れています。無くなったら終了しますので、訪れる場合はお早めに。(無料にて提供いたします) お心づけにつきましては自由意志となります。



## カトリック紐差教会 (長崎県指定文化財)

大規模な天主堂で、旧浦上天主堂が原爆によって倒壊した後は、日本最大の天主堂と言われました。東洋でも指折りのロマネスク様式で、内部にはアーチと美しいステンドグラスがはめ込まれ、鉄川与助の特徴である花柄の模様が豊かに飾られています。柱が少なく外観よりも大きな規模を感じ、キリスト教の空間に日本の仏教的な空間が混入し、仏教的な空間が混入したような神秘的な雰囲気を見せています。

住 平戸市紐差町1039 交 平戸大橋から車で25分 料 拝観無料 休 無休  
時 8時～15時(ミサ・催事等の時は見学不可) P 普通車45台 大型なし



## カトリック宝亀教会 (長崎県指定文化財)

小さな宝亀集落の最奥地の山あいにひっそりと佇む木造の教会です。正面はレンガ積みにモルタル拭きつけ、上部に円形ステンドグラス、内部はこうもり天井など、建築学上多くの特徴をもつ聖堂は、光を集め南向きに建てられ、白い漆喰とレンガ色のコントラストを美しく情緒的に映えさせています。地域に根付き、住民の祈りの声が聞こえてくるような教会です。

住 平戸市宝亀町1170 交 平戸大橋から車で25分 料 拝観無料  
時 8時～16時(ミサ・催事等の時は見学不可) 休 無休  
P 普通車25台 大型なし



## カトリック木ヶ津教会

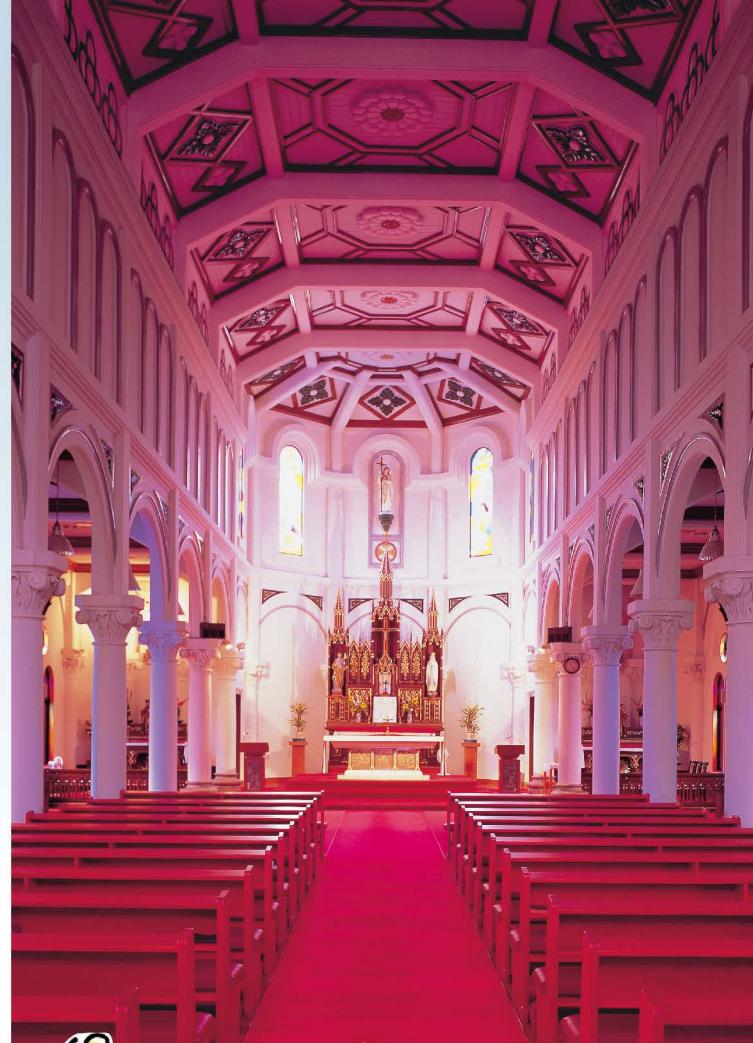
平戸市中部・紐差から東方面へ進む高台に佇んでいます。この地区は、明治初期に平戸で布教活動をされたド・ロ神父のご指導の下、西彼や五島方面から移り住まわれたカトリック信者です。その信者の人たちによって昭和36年、平戸猶興館高校の古い体育館を利用して建立されたものです。聖堂内の壁に掲げられた故永井隆博士の「十字架の道行」の14枚の絵が公開されています。博士が亡くなる数ヶ月前に病床で描かれた博士の死語、長崎浦上に寄贈されていたものを木ヶ津教会が譲り受けた貴重な物です。

住 平戸市木ヶ津町577 交 平戸大橋から車で30分(国道383号紐差交差点から県道60号線・木ヶ津町方面へ) 料 拝観無料  
時 不定 休 無休 P 普通車2台 大型なし



### 「十字架の道行」とは

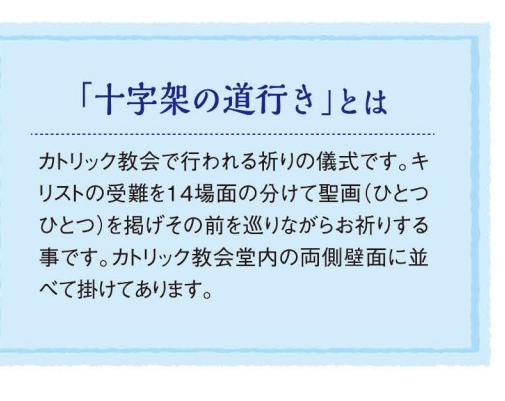
カトリック教会で行われる祈りの儀式です。キリストの受難を14場面の分けて聖画(ひとつひとつ)を掲げその前を巡りながらお祈りする事です。カトリック教会堂内の両側壁面に並べて掛けられています。



## 平戸市切支丹資料館

根獅子地区は「かくれキリストンの里」と呼ばれ、禁教の時代にも「納戸神」の信仰が続けられていました。この資料館は、根獅子のキリストンの聖地「ウシワキの森」に建てられ、布教時代に伝えられた信仰の品々などを収集・展示・保存している資料館です。

住 平戸市大石脇町1502-1 0950-28-0176  
交 平戸大橋より30分 料 大人200円/高校生150円/小中学生70円  
時 9時～17時30分 休 水曜日、12月29日～1月2日 P 普通車10台



## キリストの信仰が息づく島、生月。

戦国時代の終わり頃、平戸地方のキリシタン信仰の中心になったのが、キリスト教領主・籠手田氏・一部氏が支配し、殆どの島民が信徒となっていた生月島でした。しかし平戸における禁教政策によって慶長4年(1599)には籠手田氏・一部氏は大勢の信徒と長崎に退去し、島内では黒瀬の辻のガスバル様の殉教や、中江ノ島の殉教などの悲劇が起きます。しかし残った信徒は、組織を維持して密かに信仰を続けてきました。明治に入ってキリスト教の禁制が解けカトリックの再布教が始まった結果、大正元年(1912)には山田教会が建てられます。しかしその一方で多くの島民は、潜伏時代の信仰形態であるかくれキリスト教を継続し、今日に至っています。



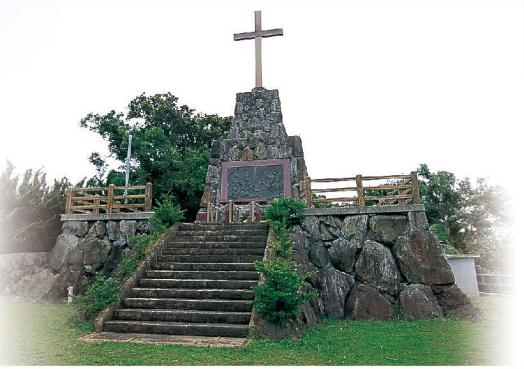
※鉄川与助設計(大正元年)



## カトリック山田教会

山田集落の高所に建つ山田教会は、大正元年(1912)に鉄川与助氏の手により完成したレンガ造りの教会です。特徴的なこうもり天井は珍しい蝶の羽根のコラージュに彩られ、内部にある生月に関係した殉教地を紹介するレリーフや、聖地ガスバル様の松の木で作られた十字架、悲しみの聖母像などに、島の信徒が辿った受難の歴史を偲ぶことができます。

住 平戸市生月町南免4289-1 交 平戸大橋から車で30分 料 拝観無料  
時 9時～17時(ミサ・催事等の時は見学不可) 休 無休 P 普通車14台、大型1台



## 聖地ガスバル様

島を治めていたキリスト教領主・籠手田氏・一部氏が退去した後、島に残った信徒を指導したのが西玄可(洗礼名ガスバル)です。慶長14年(1609)に捕えられ、黒瀬の辻で処刑・埋葬されました。が、信徒達はここを聖地として崇め、カトリック信徒による記念碑も建てられています。

住 平戸市生月町山田免1580 交 平戸大橋から車で30分 料 拝観無料

### 豆知識

「潜伏キリストン」と「かくれキリストン」とは?

禁教時代に、表向きは仏寺の檀家となりながら、一方で納戸神や聖地など通じてキリスト教の信仰を保持・継承した人々を「潜伏キリストン」と呼んでいます。これに対し、禁教令が撤廃された後もカトリックに復帰せず、潜伏時代の信仰形態を継承している人々は、「かくれキリストン」と呼ばれる。

## かくれキリストンの御神体 聖母子のお掛け絵(島の館所蔵)



### かくれキリストン豆知識

#### オラショ

殆どの家がキリストンだった根獅子では、年間40程の行事が行われ、お名付け(洗礼)やかくれの葬送儀禮が行われていました。それらの行事の中心は「辻拜み」と呼ばれる「オラショ」を唱える事です。潜伏しながらの信仰のため、声には出さず途中世間話を交えながら唱えたといわれています。生月では、唄ったり、現在では本を用いながら、さまざまな形で今も受け継がれています。

#### 納戸神

「納戸神」とはかくれキリストンの御神体全体を指すもので昔は納戸に祀っていたためにこう呼ばれるようになりました。メダイやお掛け絵、お水瓶などさまざまな種類があります。



## 世界遺産候補 国の「重要文化的景観」 平戸の聖地と集落

住 平戸市春日町 交 平戸大橋から車で約30分 料 時 休 見学自由 P 3台(公民館駐車場利用)



丸尾山山頂

山頂から布教時代のキリスト教墓地と考えられる跡が多く見つかっています。春日の丸尾山は、棚田を見渡せる位置にあり、集落の大切な場所として守り伝えられてきました。

#### 聖地

#### 中江ノ島

カミ・コスタンツォ神父が捕らえられた時、その世話をしていたヨハネ坂本とダミヤン出口がこの島で斬罪に処せられ、続いて生月の豪族ジョアン次郎右衛門が処刑されました。壯絶な殉教の様子が信徒の心に刻まれ、殉教聖地として信仰の対象となりました。島中央部の岩場で信者が祈りの言葉である「オラショ」を唱えると、どんなに日照りでもその岩から清水が湧き出たと云われています。今なおそれを汲み取って聖水とし、サンジュワン様のお水と称して、洗礼などが行われています。



# アンジェラスの鐘の音に 込められた貴い憶い、田平。

明治6年(1873)禁教が解除され、明治19年(1886)になると、黒島のラグ神父や、外海・出津教会のド・ロ神父が私費を投じて田平に屋敷や開墾用の土地を購入し、黒島から3家族、出津から4家族の信徒を移住させました。その後、五島・平戸などからも自費移住者が増加し信徒も増えていました。明治20年(1887)にラグ神父によって最初のミサが行われ、現在は、田平天主堂・平戸口・福崎など3つの教会に約1,000人近い信徒が属しています。

## 世界遺産候補

### 田平天主堂 (カトリック田平教会)

田平天主堂は、田平に移住した信徒達が苦労して土地を開墾し、信徒たちの寄付の末に大正7年(1918)に完成しました。赤レンガ造りの教会堂正面には、どっしりとした鐘塔がそびえています。内部は三廊式で、円柱にはコリント風柱頭飾が施されており、天井はこうもり天井です。多くの教会を手掛けた鉄川の煉瓦造りの集大成と評価され、彼自身も「自信作」と語っていたと言われています。

住 平戸市田平町小手田免19  
料 拝観無料 時 9時~17時(ミサ・催事等の時は見学不可)  
休 無休  
P 普通車30台 大型4台



## 教会豆知識

### 教会建築の第一人者 鉄川 与助



明治12年(1879)上五島の新魚目の大工の棟梁の長男として生まれ、20歳の頃から教会建築に従事。フランス人のド・ロ神父らの指導を受け、持ち前の向上心と行動力で手腕を発揮し、教会建築の第一人者といわれるまでになりました。長崎を中心に、西日本各地に残る鉄川与助氏の手掛けた教会群は、日本近代建築史において高い評価を受け、それらは今でも日本の歴史と風土の中に息づき、教会のある風景をそれぞれの土地に定着させています。

## 平戸とキリスト教

### 領民すべてが改宗。 一斉に広がったキリスト教

平戸松浦家25代当主、松浦隆信(道可)が天文19年(1550)にボルトガル船との貿易を始めたことが、長崎のキリスト教伝来のはじまり。

フランスのザビエル神父によって布教が積極的に行われ、家臣・籠手田氏と弟の一部氏も入信。彼らの領地に住む人々はすべて一斉改宗させられ、平戸には多くのキリスト教信者が生まれた。

### 弾圧そして復活の教会建築へ

慶長4年(1599)にそれまでキリストンと一定の関係を保ってきた松浦隆信(道可)が亡くなると、その後を継いだ鎮信(法印)がキリストン勢力への圧力を強めたため、籠手田一族は信徒600名とともに長崎に退去。支柱を失った平戸の信者は禁教の時代に突入する。表面上は座敷に神棚を祭り、仏壇を備えていたが、納戸には聖母マリアなどを描いた聖画を飾って信仰を続けていた。その後、明治政府が信教の自由を認めると潜伏キリストンたちはカトリックに復帰し、堂々と祈りを捧げられる教会を建て始めた。

### 今もなお受け継がれる かくれキリストンの文化

信教の自由が認められたことにより、潜伏キリストンの一部は復活を果たすが、あえて復活をせずに、禁教時代の信仰スタイルをそのまま継続している人々を“かくれキリストン”とよんでいる。現在、その信仰を守っているのはごくわずかだが、殉教地や墓地などの聖地は人々の手によって今も大切に守られ、世界遺産登録に期待が寄せられている。

## 長崎の教会群とは？

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は450年以上にも及ぶ、日本におけるキリスト教の伝播と浸透のプロセスを示す歴史的遺産です。その歴史は決して平坦なものではなく、「伝来と繁栄」、「弾圧と潜伏」、そして「復活」という、世界でも類を見ない独自のプロセスが長崎地方で展開しました。250年に及ぶ弾圧の中、指導者がいない中で信仰を引き継ぎました。



# 平戸キリストン紀行 観光モデルコース

## ◆田平・平戸キリストンルート(車で約3時間)



## ◆春日・生月キリストンルート(車で約3時間)



## ■タクシー貸切プラン(地元ガイド付)

上記コースを貸切タクシーでめぐります(地元ガイド解説付)

### 田平・平戸キリストンコース3時間

小型タクシー貸切 17,800円(3名まで)  
大型タクシー貸切 24,800円(4~8名まで)  
※スタート・ゴールは、ホテル・平戸港交流広場・MR平戸口駅など選択可  
※佐世保発着を希望の方は、ご相談ください。(別料金)

### 春日・生月キリストンコース3時間

小型タクシー貸切 17,800円(3名まで)  
大型タクシー貸切 24,800円(4~8名まで)  
※スタート・ゴールは、島の館または生月島内の旅館など選択可  
※平戸・田平を発着希望の方はご相談ください。(別料金)

## ■世界遺産「中江ノ島」漁船クルーズ

生月島内の館浦港または壱部桟橋を出発し、中江ノ島を一周するクルーズです(上陸不可)。漁船に乗る体験と世界遺産の「中江ノ島」を間近でガイドによる専門案内がポイント。

集合場所:館浦港または壱部桟橋 所要時間:約1時間 料金:ひとり様3,500円~(人数により変更あり)  
定員:9名様まで※一週間前までに要予約。事情により催行できない場合もあります。

H28.5月から運行予定。詳しくは5月以降、達人Navi平戸にてご確認ください。

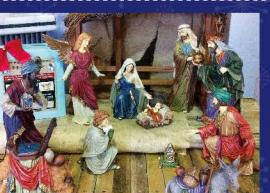
達人Navi平戸 http://hirado-net.com

## 12月にお越しの方へ 平戸サイレントクリスマス

イルミネーションに彩られながらも静かに佇む教会。本物のクリスマス・ミサの体験、「馬小屋」展示、ドネーション(寄付)リボンなど平戸らしいクリスマスが盛り沢山です。

### 「馬小屋」展示

「馬小屋」とは、キリストが生まれたベツレヘムの馬小屋の状況を再現した物です。平戸でもホテルや観光施設など、11もの施設で各々オリジナルの馬小屋を設置します。



### 教会での クリスマスマサ体験

12月24日に本物のミサへ参加し、神父様より祝福を受けます。また、ミサ体験終了後には信徒たちによる軽食のおもてなしがあります。(事前予約要)

お問合せ 平戸観光交流センター

TEL 0950-22-3060

### クリスマスキャンドル

幸せの聖地「幸橋」と平戸ザビエル記念教会、上神崎教会でキャンドルを点灯します。

